

# くすりのしおり

外用剤

2025年02月改訂

薬には効果（ベネフィット）だけでなく副作用（リスク）があります。副作用をなるべく抑え、効果を最大限に引き出すことが大切です。そのために、この薬を使用される患者さんの理解と協力が必要です。

## 製品名：カルテオロール塩酸塩点眼液 2%「わかもと」

主成分：カルテオロール塩酸塩 (Carteolol hydrochloride)

剤形：無色澄明の点眼剤、5mL、(キャップ) 濃赤色

シート記載など：



## この薬の作用と効果について

交感神経受容体の一つであるβ受容体を遮断し、目の中の液（房水）の産生を減らすことにより眼圧を下げます。

通常、緑内障、高眼圧症の治療に用いられます。

## 次のような方は注意が必要な場合があります。必ず担当の医師や薬剤師に伝えてください。

- ・以前に薬や食べ物で、かゆみ、発疹などのアレルギー症状が出たことがある。気管支喘息または以前に気管支喘息と診断されたことがある。気管支痙攣または以前に気管支痙攣と診断されたことがある。慢性閉塞性肺疾患がある。コントロール不十分な心不全、徐脈、房室ブロック、心原性ショックがある。コントロール不十分な糖尿病、糖尿病性ケトアシドーシス、代謝性アシドーシスがある。コンタクトレンズを使用している。
- ・妊娠または授乳中
- ・他に薬などを使っている（お互いに作用を強めたり、弱めたりする可能性もありますので、他に使用中の一般用医薬品や食品も含めて注意してください）。

## 用法・用量（この薬の使い方）

- ・あなたの用法・用量は（：医療担当者記入）
- ・通常、1%製剤を1回1滴、1日2回点眼します。なお、十分な効果が得られない場合は、2%製剤を用いて1回1滴、1日2回点眼します。本剤は2%製剤です。必ず指示された点眼方法に従ってください。
- ・この目薬は、フィルターを装着した特殊な容器（NP容器）を使用しています。そのため、従来の目薬と比べて点眼するとき少し力が必要です。また、最初の1滴が出てくるまでに少し時間がかかります。
- ・容器の先端が直接目に触れないようにしてください。
- ・点眼後は、しばらく（1～5分間）まばたきをしないで目をつぶってください。
- ・点眼した時に液がまぶたなどについた場合は、すぐにふき取ってください。
- ・他の目薬と併用するときは、少なくとも5分以上の間隔をあけて点眼してください。
- ・点眼し忘れた場合は、気がついた時にできるだけ早く点眼してください。ただし、次に点眼する時間が近い場合は点眼しないで、次回より指示どおりに点眼してください。2回分を一度に点眼してはいけません。
- ・誤って多く使用した場合は医師または薬剤師に相談してください。
- ・医師の指示なしに、点眼するのを止めないでください。

## 生活上の注意

### この薬を使ったあと気をつけていただくこと（副作用）

主な副作用として、眼の症状では眼刺激症状（しみる感じ、疼痛、灼熱感、かゆみ、乾燥感など）、霧視（目がかすむ）、異物感、眼脂（目やに）、結膜炎、眼瞼炎、眼瞼腫脹、羞明感（まぶしく感じる）、角膜障害（角膜炎、角膜びまん性混濁、角膜びらんなど）、視力異常、眼瞼発赤、全身の症状では徐脈、呼吸困難、頭痛、不快感、倦怠感、めまい、吐き気、味覚異常（苦味など）、皮膚炎、発疹などが報告されています。このような症状に気づいたら、担当の医師または薬剤師に相談してください。

まれに下記のような症状があらわれ、[ ]内に示した副作用の初期症状である可能性があります。

このような場合には、使用をやめて、すぐに医師の診療を受けてください。

- ・息切れ、息をするときヒューヒュー音がする [喘息発作]
- ・脈が遅くなったり、めまい感から気を失う [失神]
- ・脈が遅くなる、息切れ、めまい、体がだるい、胸の痛み [房室ブロック、洞不全症候群、洞停止などの徐脈性不整脈、うっ血性心不全、冠攣縮性狭心症]
- ・目の異物感、眼痛、結膜充血 [眼類天疱瘡]
- ・意識消失、立ちくらみ [脳虚血、脳血管障害]
- ・発熱、顔の紅斑、光線過敏症 [全身性エリテマトーデス]

以上の副作用はすべてを記載したものではありません。上記以外でも気になる症状が出た場合は、医師または薬剤師に相談してください。

## 保管方法 その他

- ・乳幼児、小児の手の届かないところで、直射日光、高温、湿気を避けて保管してください。
- ・開封後1ヵ月が経過し、薬が残った場合、保管しないで廃棄してください。廃棄方法がわからない場合は

受け取った薬局や医療機関に相談してください。他の人に渡さないでください。

**医療担当者記入欄**

年 月 日

より詳細な情報を望まれる場合は、担当の医師または薬剤師におたずねください。また、医療関係者向けの「添付文書情報」が医薬品医療機器総合機構のホームページに掲載されています。